令和元年度　第３回沖縄県がん診療連携協議会　小児・AYA 部会　議事要旨

日　　時：令和元年 10 月 30 日（水）　16：00～18：00
場　　所：琉大病院がんセンター
構 成 員：16 名

出 席 者： ８名
大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、太田守克(沖縄県教育庁健体育課)、金城敦子(がんの子どもを守る会　沖縄支部)、當銘保則(代理　大城裕理　琉大病院整形外科)、百名伸之(琉大病院小児科)、銘苅桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、増田昌人（琉大病院がんセンター）

欠　　席：８名
朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、國仲弘一(琉大病院第一外科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターＣＬＳ)、友利敏博(森川特別支援学校)、仲里可奈理（沖縄県保健医療部健康長寿課）浜田聡(琉大病院小児科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)

陪 席 者：２名
上地　勇人(保健体育課健康体育班)
石川　千穂(がんセンター事務)

＊冒頭　増田委員より、太田委員に委嘱状が授与された。また、委員よりそれぞれ自己紹介が行われた＊

【報告事項】
１．第２回小児・AYA 部会　議事要旨（８月１日）
百名委員より資料１に基づき、第２回小児・AYA 部会　議事要旨について説明があった。

２．小児・AYA 部会　委員一覧
百名委員より資料２に基づき、小児・AYA 部会　委員一覧について報告があった。

３．「がん教育」について
（１）文科省委託事業「がん教育総合支援事業」における沖縄県連絡協議会
太田委員より資料 3 に基づき、文科省委託事業「がん教育総合支援事業」における沖縄県連絡協議会について報告があった。第１回の協議会の中で、がん教育の実施率をあげていくためにまずは中学校・高校の実施率をあげていくことを目標に進めていくのだが、保健体育の先生に授業をして頂く方法がハードルが低いのではないかという意見があったことが報告された。中学校、高校を進めた後、小学校・特別支援学校に関しては教材づくりを含めて進めていくことが確認されたとの報告もあった。次回第２回協議会は来年１月２２日に開催予定。

（２）令和元年度第２回がん教育研修会の報告
増田委員より資料４に基づき、令和元年度第２回がん教育研修会の報告があった。

【協議事項】
１．小児・ＡＹＡ世代の生殖機能温存について
(１)琉大病院全科共通の妊孕性温存の説明文
百名委員より、「妊孕性温存」について周知することで、患者さんが将来望んだ時に子どもを授かることが出来るということ目指している旨の説明があった。また、がん患者さん、医療従事者に「妊孕性温存」について啓発していくために説明文(資料５)を産婦人科の銘苅先生に作成して頂いたとの説明もあった。銘苅委員から資料５について説明された。

(２)医師向け研修会の企画について
資料６と(１)の協議を踏まえ、院内を中心とした医師・メディカルスタッフ向け「妊孕性温存についての研修会」を来年１月に開催するということで一致した。時間は１時間で午後５時開演ということになった。

２．小児がん患者の長期フォローアップについて
(１)琉大病院における小児がん・移植長期フォローアップ外来の開設について
百名委員より、琉大病院では小児がんは、現時点では通常の外来に長期フォローアップの方も入っているが、今後の方針としては、特別にフォローアップ外来を設けて、看護師さんも含めていろんな角度から包括的にフォローできるような体制をつくろうということになっているとの発言があった。また移植長期フォローアップについて、研修を受けた知識ある小児科・内科の看護師さん達がいる、小児科ではフォローアップはしているのだが、特別な外来（名称も含めて）を開設していることがまだなので今後構築していければとの説明があり、現状としては琉大においてはフォローアップの体制は出来つつあるとの事だった。
また、増田委員より移植後のフォローアップ外来をオフィシャルに開設し外来一覧表に年度内に記載されるように作って頂ければとの提案があり承認された。

(２)フォローアップ手帳について
百名委員より JCCG(小児がん研究グループ)作成のフォローアップ手帳が委員へ配布され、手帳の内容等について説明があった。

３．学校現場への啓発について
百名委員より、小児・ＡＹＡ世代の患者さんが退院後、学校に戻った時の対応について学校によって差があることの指摘があった。養護教諭だけでなく校長先生を含めた、現場で指導的な立場にある先生方の意識が大切であり、その子の状況(どんな治療をしていて、こういうことに気を付ける、学業は森川特別支援学校でここまでは進んでいるなど)を知ってもらった方が良い。そのために、小児がんについての講演会等を行うのはどうかとの提案があった。太田委員より、例えば行政主催の研修会に組み込む、または学校長会・教頭会へ事務局を通して研修会を行う等いろいろやり方はあるかと思うので、出来る事をつなげられればとの発言があった。

４．小児・ＡＹＡ世代に対するがん相談支援センターの在り方について

百名委員より、小児がんについて相談をうける専任の方がいないことについて指摘があった。また、金城委員からも、小児のための支援員、相談室があれば助かるとの発言があった。
それに対して増田委員から、琉大の方では具体的な運用、制度上のことを考えると５～１０年ほどは予算が付くのは難しい。ポリティカルな予算措置のことを考えると、こども医療センターのほうが可能性があるかもしれないとの発言があり、たとえば県議会で質問をあげてもらい、不便ではあるかもしれないが、人はこども医療センターにおくが、相談は琉大の患者さんもいけるようにする制度を設定すると、まずは第一歩になるのではとの提案があった。末端の動きだけでなく、県議会へも働きかけるということで一致した。

５．小児・ＡＹＡがんの集約化について

百名委員より小児がんについては、琉大と南部医療センター・こどもセンターの２か所でみているのである程度は集約されているとの発言があった。ＡＹＡ世代について、増田委員より今すぐにここで何かを決めるというよりは現場をしっている先生方でどのような形で集約化していくかをゆるやかに決めていき、少しずつ集約していくのがいいのではないかとの発言があり承認された。

６．１５～２０歳(～２５歳)のがん患者に対する小児科領域のプロトコールの準用について

百名委員より、臨床研究が全国的に小児科と内科で統合してきていて、０歳から４０歳まで同じプロトコールでというのが全国的な流れとなってきているので、その流れに乗っていけばいいのではとの発言があり、承認された。

７．次回の開催日程について

１月開催予定「妊孕性温存療法について」の研修会の日程が決定してから、それより早い日程で第４回部会を開催するということで承認された。委員へ日程調整の依頼メールを事務局よりアナウンスすることに決定した。

８.その他